

令和5年度 第3回公民館運営審議会 会議録

日 時：令和6年（2024年）3月13日（水） 19時00分～20時30分

会 場：豊中市立蛍池公民館

出席者：秋山 京子、大里 ルミ子、大濱 浩子、十河 秀敏、野村 恭代、
林 美輝、福本 雅一、松山 鮎子、吉田 収子、渡邊 浩

欠席者：青木 知男、浦 耕太郎、

事務局：長坂 吉忠（教育委員会事務局次長）、北村 宣雄（教育委員会事務局次長）、弘中 伸
明（中央公民館長）、守屋 浩一（蛍池公民館）、橋本 慶（庄内公民館長）、江川 勉
（千里公民館長）、前田 真吾（中央公民館副館長）、上井 万里英（中央公民館）

傍聴者：なし

案件：

1. 令和5年度公民館講座（11月～2月）実施報告について
2. 令和6年度事業計画・予算について
3. その他
 - （1）公民分館協議会全体交流会について
 - （2）公民分館の解散と設置について
 - （3）その他

資料：

【次第】R5 第3回公民館運営審議会

資料1 令和5年度 公民館講座集計表(11月～2月実施)

資料2 令和6年度 公民館年間事業計画

資料3 令和6年度 公民館講座実施にかかる予算

資料4-1 令和5年度 豊中市公民分館協議会 全体交流会プログラム

資料4-2 令和5年度 豊中市公民分館協議会全体交流会配布レジュメ

資料5 庄内さくら公民分館設立要望書

資料6 庄内さくら公民分館設立の経過

資料7 庄内さくら学園公民分館設立準備委員会名簿

資料8 庄内さくら公民分館位置図

資料9 庄内さくら公民分館規約(案)

資料10 庄内・野田・島田公民分館 解散要望書（写し）

資料11 公民館条例等抜粋

資料12 社会教育関係団体

1. 開会

2. 案件

※重要事項のため、案件の順番は当初と変更して進行、「公民分館の解散と設置について」から審議することとする。

案件 1. 公民分館の解散と設置について

＜事務局より資料 5 ～ 11 に基づいて説明＞

- 当該の分館の皆様が時間かけて話し合われた事項であるので、異論はない。

◇ 公民館運営審議会として、庄内さくら分館の 4 月 1 日付での設置と庄内・野田・島田の 3 分館の 3 月 31 日付での解散について適当と認める旨の答申を行うがよろしいか。

異論なしのため、適当と認める。

案件 2. 令和 5 年度公民館講座（11 月～2 月）実施報告について

＜事務局より資料 1 に基づいて公民館講座について説明＞

- 中央公民館のオンデマンド講座についてホームページで拝見した。ホームページにはこれ以外にも掲載してあったがそれは別か。

■ 今回は 11 月～2 月分として報告しており、設定した配信期間が終わっていないものについてはここには掲載していない。次回の公民館運営審議会では報告する予定。

- なぜ中央公民館の職員が葬式関係の講座を多数実施したのか。

■ この講座を企画した職員が以前に火葬場関係の部署に所属しており、その関係の知識に精通していたため、市民課や担当部局に内容を確認したうえ実施したもの。

■ 補足すると、昨年度、対面の講座にて豊中市内における葬式のあり方や段取りについて葬儀社からレクチャーをしていただいた際、時間内に収まらない程の質疑があり、好評いただいたため実施にいたった。

■ それに加え、公民館講座は市民の身近な課題を扱うという原則があるので、スマホ講座

や特殊詐欺防止講座なども含め、多死時代を迎えている昨今の課題に即したものであると考え企画した。

● オンデマンド講座に非常に興味を持った。昨今はネット社会になっており、オンデマンド講座は様々な方にどこでも見ていただけるという点で非常に良いと思うが、今回はアンケートをされておられないということで、どの程度の反応があったか等は把握されているのか。

■ おっしゃるとおり、アンケートはとっておりませんので、知人からの口コミ等でしか反応を得られておらず、一般的な意見の吸い上げはできておらないため、メールで意見をいただく等の検討をしていく必要があると考える。参加者数に代わるものとしては、YouTubeのアクセス数をカウントし記載しているが、想定よりも低い数値となっているので、さらに広い範囲にリンクを貼るなど周知を進めて実施する必要があると考えている。

● 広報するというのは本当に難しいものだとここに参加させていただいて感じている。オンデマンドで講座をするというのは手段になると思うが、その手段にたどり着くまでの広報やPR活動というのは難しいが、非常に大事であると感じた。

◇ 広報誌には掲載しているのか。

■ 通常の講座と同様に掲載すると同時に、教育委員会のX（旧ツイッター）でも発信するなどしている。今後は市のLINEのセグメント配信といって、「子育て」等、各分野に興味のある人が登録するセグメントに配信するなど図っていききたいと思う。

◇ 動画をストックしていけば、どんどん効果的な教育や宣伝ができるようになるのではないかと思う。

● 先ほどのオンデマンド講座の件で、「公民分館に参加してみませんか」という動画を作成していただき有難い。公民分館も高齢化が進み、新しい方が公民分館とはどのようなものかということを知っていただきたかったが、発信力がなく、なかなか見ていただけていない現状があるのは反省点である。しかしこういった動画を公民館から発信していただけたのはありがたい。オンデマンドとは違うが、今年度、4分館共催でホテルの観察を実施した。その中で、桜井谷公民分館では子どもたちが育てたホテルを放流し、それを6月に北部ブロック分館長で観に行く予定。そういった機会でも子ども同士、学校同士など、これまでつながりがなかった分館の横つながりができたので、今後は公民館としてそういった横つながりができるような工夫をしていただけると有難い。

◇ 分館だけではできないことを公民館が呼びかけて繋いでいくことができれば、より円滑に進んでいくのではないかと思います。

- 4点ある。1点目は、講座の対象者について、2ページの庄内公民館の分は未就学児の保護者ということで募集されているが、定員に達していない場合は枠を広げて小学校の保護者も可としてもよいのではないかと。2点目は、謝礼金について、5ページの中央公民館の分は1回3万円というのは他に比べて高すぎるのではないかと印象を受けた。それだけの価値がある講座であるのか、高いのであれば断るという選択肢もあるのではないかと。3点目は、準備・PRについてもう少し項目を細分化し、何がPRにおいて効果があったのか等を追求した方がよいのではないかと。自身が子育てサロンで事業をする中で、これまではインスタを見たという声が多かったが、今日は口コミと掲示板が多かった。特に初めて来られる方には、口コミが大切なのだと感じた。子育てに関しては各小学校の子育てサロン、高齢者であれば各小学校のぐんぐん体操など、関係部局と協力してチラシを置かせていただくなど、分野に合わせて周知方法を変えた方がよいのではないかと思います。
- 4点目は、ショコラとコラボと公民館の関わりについて、以前、千里公民館は千里コラボに事業が流れていると聞いたが、庄内公民館はショコラがあっても公民館の事業がたくさんあるのはなぜか。

- 1点目の講座の対象者について、ママクラフトという講座であるが、公民館の保育室をもっと知っていただきたいところからはじまった。ショコラ内1階にある子育て支援センターにはプレイルームがあり、そこにはたくさんのお子さんにお越しいただいているが、この講座は大勢にはなじまない未就学児と保護者を対象に実施している。ただし、ご指摘いただいたとおり、余裕があるのであれば対象の幅を広げる等の検討は今後必要になると思う。

- 2点目の謝礼金の件について、標記が不十分であるが、2回で3万円ということである。またオンデマンド講座のため、講座の収録に加えて動画編集作業を依頼したため、講師料プラス動画編集謝礼となるため、高いものではないと考える。3点目の5段階自己評価について、参加者満足度と参加者数は数値化されるが、準備PRは担当者の主観が混じる。一般的な指標として、通常の広報のみであれば3の普通、そのほか特定の対象に合わせた施設等にチラシ配布等をすれば加算するという風になっている。おっしゃる通り、どういうPRに効果があったかを知るには、数値では表せないの、担当者所管の中で、記載していくなど検討していきたいと考えている。

- 4点目について、自分は庄内公民館長であり、庄内コラボセンター長でもある。公民館での社会教育事業とコラボでの地域連携事業とは類似した内容になってくるが、より社会

教育に近いものを公民館として実施し、地域連携事業でも事業を実施するということになる。事業としては地域連携事業も多数ある中で公民館の事業をここにあげているという状況である。地域連携事業が社会教育ではないということではなく、振り分けの難しさを感じている。

● 先ほどの質問の趣旨は、千里でも同様に公民館と地域連携課を兼務している中で地域連携事業の比率が高く、公民館の事業が少なくなっているが、庄内では公民館としての事業が多くあるのはなぜかということではないか。

■ それについて簡単に説明すると、千里では地域連携課の予算の配分が多いということになる。予算のとり方で、現状は地域連携課の予算の方が多いため、千里公民館としての事業が少ない。

● つまり、庄内コラボは、地域連携より公民館の予算のとり方が多いということか。

■ 今回はそういった形になっている。というのも、庄内は前年度までは公民館単独でやっており、今年度からこの形になったが、千里では以前からこの形が続いていく中で現在の予算取りになったのではないかと思われる。

■ 予算的には、ショコラ・千里コラボは複合施設であり、様々な市のセクションが同居している。特に千里では周辺に商業施設もあるため、施設の成り立ちを尊重し、地域の様々な課題解決や、地域活性化に軸足を置いた事業を多く実施しているので、地域連携課に寄った予算取りとなっている。一方で、中央や螢池は公民館に寄った予算のとり方をしているというものである。

案件3. 令和6年度事業計画・予算について

＜事務局より資料2・3に基づいて公民館講座について説明＞

◇ 防災については1月に震災もあったが、そのあたりは管轄が異なるなどがあるのか。防災関係の講座の予定等があれば教えていただきたい。

■ 「防災マスターになろう」という講座は今年度も実施しており、3月も実施予定。地域の防災意識は高まっており、特に南部では地盤が低いため水害等に興味を持たれている。ショコラや庄内さくら学園では避難所となる体育館が2階にあるなどするので、そのような講座を今年度も実施しているところである。

- 千里公民館の NHK 公開講座とはどのようなことをしているのか。
- 内容についてはまだ調整中である。
- 庄内公民館で昨年、性についての講座をされているが、これは多様性や現代の課題に即していいと思う。親だけでなく親子に広げていくなど色んな方法で実施していただきたいと思う。令和 6 年度には記載されていないが実施しないのか。
- 先ほどの話に繋がるが、対象を広げ地域連携事業で実施したいと思っている。
- 親だけでなく、思春期の子どもなど、悩みを持つ人に届けばいいと思う。
- 予算について、4 つの公民館の分配の比率はあるのか。
- 便宜上はあるが、完全に四等分ではない。同様の講座でも謝礼金を払っているものと払わないものもある。当初に分配した予算でやりくりし、途中の状況にあわせて予算を流用するなどしながら事業を実施している。

案件 4. 公民分館協議会全体交流会について

＜事務局より資料 4 に基づいて説明＞

- 講評という立場で参加した。初めて参加したが、ブロックによってはエールがあったり、全員野球の様に全員が一言ずつ発表していたり、一人が代表して緊張しながらも一生懸命に発表していたり、各ブロックの個性がよく出ており、通常の活動時の元気が伝わる良い会であったと思う。印象的だったのは、「地域を良くする柱が公民館である」という言葉や、先代から受け継いできたものを次世代に渡していきたいという思い、また、単に受け継ぐだけでなく、自分たちが楽しくワクワクできるような新しいことに挑戦し、変化しながらも受け継いでいくということを皆さんが共通で考えておられるという一方で、担い手が不足しているという課題もまた共通して抱えているということであった。また、一番面白かったのは、会は基本的に予定調和ではあったが、そうではない部分。ご発言頂いたが、会場の意見を求めているかどうかという自分の発言に対して、司会の方を慌てさせてしまったのは申し訳なかったが、何が起るかかわからないという部分があっても、あのメンバーであればうまくいくような気がしたので、次回以降、そのような部分があってもよいのではないかという風を感じた。

- おっしゃる通り予定調和的な調整があり、事前に講評者に質問内容をお伝えしていたが、自分たちのブロックにもどのような質問があるかということは予め聞いていた。会場の意見を聞くというような展開もあるかと思ったが、たくさんの意見がでると収集がつかなくなるのではないかとということで、あの場では自分が答えさせてもらった。しかし、同じ公民分館でもブロックによって分館長の年齢も全然違う。東部は比較的若く、平均年齢は50代前後。南部・北部は割と高齢だが、北部の会長は割とお若いのでバランスが取れているかと思う。ブロックによって考え方は全く違い、伝統をひたすら守るというブロックもあれば、東部のように伝統を守るためにはある程度見直しが必要と考えるブロックもある。南部は統合という課題があるので、他ブロックと同じようにはいかず様々である。統合という課題は、いずれ他のブロックにも起こるかもしれないことであるので、興味深いお話であった。今後はよりみなさんに興味を持ってもらえる交流会にしていきたいと思っている。
- 昨年度から形式が変わり今回のような形式になったが、これまでは他ブロックと接することはほぼなく、自分も今の立場に立って4ブロックに分かれていることも知ったし、それぞれ色が違うということを肌で感じた。問題点や課題は共通であるが、南部の統合という課題はよく心に響いた。長年故郷のためにやってきたことについて、いきなり新興住宅を建てるのかというような話であるかと思う。一年でよく合併まで至ったというのが正直な感想。南部でなにか困りごとがあれば、みんなで力を貸してやっていければと思っている。今回の会が次年度以降に繋がればよいと思う。
- はじめて交流会を見学したが、皆さんが感じておられる通り、ブロックごとに本当に違うと感じた。後継者の問題はありますが、楽しいイベントがあれば参加者も増える。東豊台のおまつりを見学したが、とてもエネルギッシュで若い力が溢れていた。そのような良い状況のところを共有できないかと思う。他ブロックのイベントの見学に行くなど、交流を持つ場があってもよいのではないかと考えた。
- 最後にお答えになった際、先進的な事例をいくつか挙げられた。豊中は分館のおかげで地域の活動としては先進的な取り組みができていたが、国が後追いで子どもの居場所を小学校に設置することや、地域教育協議会を中学校に設置すること等を挙げてきた。その際に、国が交付した財源を市が分館に配布していればもっとスムーズに進んでいたと思う。地域のあり方が先を行き過ぎたために国の施策と合致しなかったというところがある。自分も以前、教育委員会に所属していた際、国から来た予算をどうするかと考えた時に、国の指示した方法通りにしていたが、そうではなく分館に交付していれば、より面白いことができたのではないかと考えていた。

- 参加させていただいた。どの分館も問題点は把握されているということで、これから解決に向けてがんばっていきたいと仰っていた。講評の先生にも先進の事例を求められ、関東の事例をご紹介いただいていた。重なるが、市は分館の独立性を重視しており、市の介入があまりない。庄内さくら分館のお話の中で、統合に関しては公民館長の提案があったとの記載を見たが、分館だけでは不安な面もそのような後押しがあればよりうまく進むと思うので、今後もそのような提案やサポートをしていただければより課題解決に繋がるのではないかと感じた。

案件 5. その他

＜事務局より資料 1 2 に基づいて説明＞